

益田地区広域クリーンセンター 整備及び運営事業

審査講評

平成 17 年 5 月 11 日

益田地区広域クリーンセンター整備及び
運営事業に係る P F I 事業者審査委員会

《目 次》

第1 審査委員会	1
第2 審査方法	1
第3 審査委員会等開催状況	2
第4 第一次審査	3
1. 第一次審査の対象グループ	3
2. 資格審査	3
3. 内容審査	3
4. 提案価格確認	7
5. 総合評価値 の算出及び第一次審査通過者の選定	7
第5 第二次審査	8
1. 第二次審査の対象グループ	8
2. 入札価格審査	8
3. 基礎審査	9
4. 内容審査	9
5. 総合評価値 の算出及び優秀提案の選定	14
第6 総評	14

第1 審査委員会

益田地区広域クリーンセンター整備及び運営事業に係るPFI事業者審査委員会（以下「審査委員会」という。）は、益田地区広域市町村圏事務組合において、次の5名により構成し、設置された。

審査委員長 光 多 長 温（鳥取大学教育地域科学部教授）
審査委員 上 原 徹（島根大学総合理工学部助教授）
審査委員 樋 口 隆 哉（山口大学工学部社会建設工学科助手）
審査委員 大 石 大（公認会計士）
審査委員 笹 川 清（益田市総務部長）

第2 審査方法

広域組合は、平成16年3月1日の実施方針公表後、同15日までに関心表明書を受付けた結果、27社から関心表明を受けた。このうち参加を希望した17社に対して同年4月6日、7日の2日間で事業者ヒヤリングを実施した結果、多くの企業が本事業への参加について高い関心を持っていることが把握された。さらに、副生成物の種類が異なる方式を含めて5つの処理方式を採用可能処理方式とするなど、多様な処理方式での募集を実現したことにより、応募者が多数になることが見込めた。このため、審査は、応募者の負担軽減に配慮して、第一次審査及び第二次審査の2段階に分けて実施することとした。

審査方法の詳細については、落札者決定基準に示すとおりであるが、本事業では、第一次審査においても、入札説明書で示した参加資格要件を満たしているか否かだけでなく、廃棄物処理施設としてのプラント性能を発揮するためのハード面と、運営方法や事業スキームの安定性といったソフト面の両面の考え方に重点をおいて審査し、得点化する内容審査を実施するとともに事業を実施する上での提案価格を確認し、総合評価方式により一定水準以上の提案者を第一次審査通過者として選定した。

さらに、第二次審査では入札価格審査ならびに入札説明書及び要求水準書に示す最低限の要件を満たしているか否かを審査する基礎審査を実施するとともに要求水準書を達成するための具体的方法論及び要求水準を越える具体的提案内容を審査し得点化する内容審査を実施し、総合評価方式により優秀提案を選定した。このうち内容審査の実施にあたっては、事前に応募者との対話方式によるヒヤリングを開催し、提案書の内容についての理解を深めた。

なお、審査にあたっては、応募者番号のみが記載された審査資料に基づき審査し、応募者の匿名性を確保した。

第3 審査委員会等開催状況

審査委員会の開催状況，審査結果の公表状況等は表 3-1 に示すとおりである。

表 3-1 審査委員会の開催状況，審査結果の公表状況等

日 程	内 容
平成 16 年 2 月 4 日	第 1 回審査委員会 （実施方針及び要求水準書等の審議）
平成 16 年 3 月 1 日	実施方針等の公表
平成 16 年 3 月 15 日	関心表明書の受付期限
平成 16 年 3 月 15 日	実施方針等に関する意見書受付期限
平成 16 年 4 月 6 日～7 日	関心表明書提出事業者に対するヒヤリング
平成 16 年 5 月 10 日	第 2 回審査委員会 （処理方式 ¹ ，要求水準書，落札者決定基準等の審議）
平成 16 年 7 月 23 日	実施方針（変更）の公表 ²
平成 16 年 8 月 5 日	特定事業の選定・公表
平成 16 年 8 月 6 日	入札公告及び入札説明書等の公表
平成 16 年 8 月 20 日	参加意志確認書の受付期限
平成 16 年 8 月 20 日	入札説明書等に関する質問受付期限（第 1 回）
平成 16 年 9 月 17 日	上記質問に対する回答の公表
平成 16 年 9 月 30 日	参加表明書の受付期限
平成 16 年 10 月 1 日	応募者番号の通知
平成 16 年 11 月 5 日	第一次審査書類の受付
平成 16 年 12 月 2 日	第 3 回審査委員会 （資格審査，内容審査，提案内容確認，総合評価値算出）
平成 16 年 12 月 6 日	第一次審査結果の通知
平成 16 年 12 月 10 日	入札説明書等に関する質問受付期限（第 2 回）
平成 16 年 12 月 27 日	上記質問に対する回答の公表
平成 17 年 2 月 7 日	第二次審査書類の受付
平成 17 年 2 月 28 日	第 4 回審査委員会 （応募者ヒヤリング ³ ）
平成 17 年 3 月 1 日	第 5 回審査委員会 （入札価格審査，基礎審査，内容審査のうち整備計画及び運営計画）
平成 17 年 3 月 9 日	第 6 回審査委員会 （内容審査のうち事業計画，総合評価値算出）
平成 17 年 3 月 14 日	落札者決定・公表

注) 1：溶融 3 方式（シャフト炉式ガス化溶融方式，流動床式ガス化溶融方式及びストーカ＋灰溶融方式）以外の新たな処理方式として，流動床式炭化炉方式及びストーカ＋セメント原料化方式（以下「追加 2 方式」という。）を追加することについて提言した。なお，追加に至った理由については，実施方針（変更）を参照のこと。

2：広域組合は，平成 16 年 5 月 21 日に益田地区広域市町村圏事務組合理事会を開催し，第 2 回審査委員会における提言を受けて，追加 2 方式を新たに処理方式とすることについて，正式に決定した。この決定に伴い，広域組合は実施方針を変更し，公表することとなった。

3：応募者の提案内容を基に，応募者と審査委員会の対話方式で実施した。

第4 第一次審査

1. 第一次審査の対象グループ

広域組合は、A～Iの9グループから参加表明書を受付けたが、第一次審査書類の受け付け前にAグループから辞退の申し入れがあり、第一次審査の対象グループは、表4-1に示すとおりB～Iの8グループとなった。

表4-1 第一次審査の対象グループ

応募者番号	代表事業者	処理方式
Bグループ	中国電力株式会社	ストーカ+灰溶融方式
Cグループ	日本碍子株式会社	流動床式炭化炉方式
Dグループ	エコマネジ株式会社	ストーカ+灰溶融方式
Eグループ	JFEエンジニアリング株式会社	ストーカ+セメント原料化方式
Fグループ	三菱重工業株式会社	ストーカ+灰溶融方式
Gグループ	株式会社タクマ	ストーカ+灰溶融方式
Hグループ	電源開発株式会社	ストーカ+灰溶融方式
Iグループ	株式会社荏原製作所	ストーカ+灰溶融方式

注) Aグループ(代表事業者:株式会社クボタ)は辞退

2. 資格審査

応募者から提出された入札参加資格審査申請書類をもとに、「落札者決定基準」に示す事項について審査した結果、8グループ全てが入札参加資格の基準を満たしていた。

3. 内容審査

(1) 審査結果一覧

内容審査の審査結果の一覧は、表4-2に示すとおりである。内容審査は、本事業の内容を適切に認識し、事業実施に当たっての基本方針が広域組合の事業目的や方針と適合し、且つ、その達成ができるものとなっているかについて、廃棄物処理施設としてのプラント性能を発揮するためのハード面と運営方法や事業スキームの安定性といったソフト面の両面の考え方に重点を置いて、専門の見地から審査し得点化した。具体的には、応募者から提出された内容審査に関する提案書をもとに、「落札者決定基準」(配点100点)に示す19問(37視点)の各設問についてA～Eの5段階評価を行い、8グループ全ての提案内容を得点化した。

「落札者決定基準」により得点が基準点(60点)未満の場合は失格とすることとしていたが、失格となる応募者はなかった。

表 4-2 内容審査 の審査結果一覧

審査項目	配点	Bグループ		Cグループ		Dグループ		Eグループ		Fグループ		Gグループ		Hグループ		Iグループ	
		評価	得点														
1. 本事業の基本的な考え方																	
(1)- 環境負荷の低減	3.00	B	2.25	A	3.00	B	2.25	B	2.25	B	2.25	C	1.50	C	1.50	C	1.50
(1)- 安心・安全で安定した施設の稼働	3.00	C	1.50	C	1.50	B	2.25	C	1.50	B	2.25	B	2.25	B	2.25	B	2.25
(1)- リサイクルの推進	3.00	B	2.25	A	3.00	A	3.00	A	3.00	A	3.00	C	1.50	A	3.00	B	2.25
(1)- 周辺環境との調和	3.00	C	1.50	D	0.75	A	3.00	D	0.75	D	0.75	D	0.75	A	3.00	C	1.50
(1)- 地域との連携と融和	3.00	B	2.25	A	3.00	B	2.25	D	0.75	A	3.00	D	0.75	B	2.25	B	2.25
(1)- ライフサイクルコストの削減	3.00	D	0.75	A	3.00	B	2.25	D	0.75	A	3.00	B	2.25	B	2.25	A	3.00
(2)本事業の実施体制	7.00	A	7.00	A	7.00	A	7.00	B	5.25	A	7.00	C	3.50	A	7.00	B	5.25
小計	25.00		17.50		21.25		22.00		14.25		21.25		12.50		21.25		18.00
2. 整備計画に関する考え方																	
(1)施設規模等設定の考え方	10.00	B	7.50	B	7.50	A	10.00	B	7.50	B	7.50	B	7.50	A	10.00	A	10.00
(2)ごみ量変動、ごみ質変化の考え方	7.00	A	7.00	A	7.00	A	7.00	A	7.00	A	7.00	B	5.25	A	7.00	A	7.00
(3)ごみの種類と形状の制限緩和の方法	6.00	A	6.00	A	6.00	A	6.00	D	1.50	A	6.00	A	6.00	A	6.00	A	6.00
(4)採用する処理方式の実績等	12.00	C	6.00	C	6.00	A	12.00	B	9.00	A	12.00	A	12.00	A	12.00	A	12.00
小計	35.00		26.50		26.50		35.00		25.00		32.50		30.75		35.00		35.00
3. 運営計画に関する考え方																	
(1)安全かつ安定した運転を行うための考え方	6.00	B	4.50	B	4.50	B	4.50	B	4.50	A	6.00	B	4.50	B	4.50	B	4.50
(2)受入時間の拡大についての考え方	3.00	B	2.25	B	2.25	B	2.25	B	2.25	A	3.00	C	1.50	A	3.00	B	2.25
(3)処理不適合物発見等の考え方	3.00	C	1.50	B	2.25	A	3.00	C	1.50	B	2.25	B	2.25	B	2.25	A	3.00
(4)副生成物の有効利用についての考え方	10.00	A	10.00	A	10.00	B	7.50	A	10.00	A	10.00	E	0.00	A	10.00	B	7.50
(5)機械設備の維持管理に関する考え方	8.00	B	6.00	B	6.00	A	8.00	B	6.00	A	8.00	B	6.00	B	6.00	A	8.00
小計	30.00		24.25		25.00		25.25		24.25		29.25		14.25		25.75		25.25
4. 追加溶融施設整備及び運営の考え方																	
(1)事業スキームの安定性確保の考え方	4.00	A	4.00	A	4.00	A	4.00	D	1.00	A	4.00	A	4.00	A	4.00	A	4.00
(2)追加溶融施設整備の考え方	3.00	A	3.00	A	3.00	A	3.00	D	0.75	A	3.00	A	3.00	A	3.00	A	3.00
(3)追加溶融施設運営の考え方	3.00	A	3.00	A	3.00	A	3.00	D	0.75	A	3.00	A	3.00	A	3.00	A	3.00
小計	10.00		10.00		10.00		10.00		2.50		10.00		10.00		10.00		10.00
内容審査 の得点合計	100.00		78.25		82.75		92.25		66.00		93.00		67.50		92.00		88.25

<採点基準>

- A (配点×100%) : 応募者独自提案であり, その効果に非常に大きな期待ができる。
- B (配点× 75%) : 提案の効果に大きな期待ができる。
- C (配点× 50%) : 提案の効果に期待ができる。
- D (配点× 25%) : 提案の効果にあまり期待ができない。
- E (配点× 0%) : 提案の効果にほとんど期待ができない。

(2) 内容審査 の講評

内容審査 の講評は表 4-3 に示すとおりである。

表 4-3 内容審査 の講評

内容審査 の審査項目	講 評
1. 本事業の基本的な考え方	
(1)- 環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともに、環境負荷をできる限り低減した施設の整備及び運営の考え方が具体的かつ適切であり、評価できる。 Bグループ、Cグループ、Eグループは、地球温暖化に起因する排ガス排出量が少ない方式を採用している点が評価できる。特に、Cグループは、排ガスの上乗せ基準値を設定する点が評価できる。 Dグループは、運営中の環境負荷低減の為の取組み体制として、独自の提案がなされている点が評価できる。 Fグループは、排ガスの上乗せ基準値を設定する点が評価できる。
(1)- 安心・安全で安定した施設の稼働	<ul style="list-style-type: none"> 各グループともに、実績に基づき安心・安全であるとともに、ごみ質及びごみ量の広範な変動にも対応できる処理システムによる施設の整備及び運営の考え方が具体的かつ適切であり、評価できる。 特にDグループ、Fグループ、Gグループ、Hグループ、Iグループは、安心・安全であるとともに、ごみ質及びごみ量の広範な変動にも対応できる処理システムによる施設の整備及び運営の考え方が、長年に亘る豊富な納入実績に基づき具体的に表現されていた点が評価できる。
(1)- リサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> Cグループ、Dグループ、Eグループ、Fグループ及びHグループは、主たる副生成物、金属類及び余熱の全ての有効利用について取組方針が具体的かつ適切である点が評価できる。 Bグループ及びIグループは主たる副生成物及び余熱の有効利用について取組方針が具体的かつ適切である点が評価できる。
(1)- 周辺環境との調和	<ul style="list-style-type: none"> Dグループは施設用地内、Hグループは管理用地にそれぞれ独自性のある提案がなされている点が評価できる。 Bグループ、Iグループは施設用地及び管理用地の取組方針について具体的かつ適切である点が評価できる。
(1)- 地域との連携と融和	<ul style="list-style-type: none"> Bグループ、Cグループ、Dグループ及びFグループは地元企業が構成員になっている点が評価できる。さらに、このうちCグループとFグループは見学者対応及び社会活動への積極的な参加など、地域社会への融和に配慮する考え方が具体的かつ適切な点が評価できる。 Hグループは地域経済への貢献に配慮した事業スキームを提案している点が評価できる。 Iグループは、地域社会への融和に配慮した様々な工夫がなされている点が評価できる。
(1)- ライフサイクルコストの削減	<ul style="list-style-type: none"> Cグループ、Fグループ、Iグループは、ライフサイクルコストの削減を図るための施設の整備及び運営の両面で取組方針が具体的で、数多く表現されており、本事業に取り組む強い意欲が伺えた点が評価できる。 Dグループは、ライフサイクルコストの削減を図るための施設の運営に関する取組方針が具体的で、本事業に取り組む意欲が伺えた点が評価できる。 Gグループ、Hグループは、ライフサイクルコストの削減を図るための施設の整備に関する取組方針が具体的で、本事業に取り組む意欲が伺えた点が評価できる。
(2) 本事業の実施体制	<ul style="list-style-type: none"> Bグループ、Cグループ、Dグループ、Fグループ、Hグループは、応募者の事業実施体制、役割分担・責任分担が具体的かつ適切であり、提案の效果に非常に大きな期待ができる点が評価できる。 Eグループは焼却灰及び飛灰の県外への運搬に特殊車両を必要とする方式でありつつも、地元の運搬企業が未定であった。 Gグループは保険会社が確認できなかった。

内容審査 の審査項目	講 評
	<ul style="list-style-type: none"> ・ Iグループは、処理不適物・飛灰の運搬については広域組合委託先企業を要するにも関わらず、全て協力事業者が行うこととしていた。
2. 整備計画に関する考え方	
(1) 施設規模等設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Hグループ及びIグループは、系列数、1系列あたりの稼働日数、ごみピットの貯留容量、施設規模の設定の考え方が明確かつ整合が取れており評価できる。 ・ Bグループは、稼働日数の設定根拠について疑問が残るが、各項目の設定の整合がとれており評価できる。 ・ Cグループは、施設規模設定時の稼働日数と提案している運転パターンからの稼働日数の整合及びごみピット貯留容量の設定根拠と稼働日数との整合がとれていないが、各項目の設定根拠が明確な点は評価できる。 ・ Eグループ、Fグループは、ごみピットの貯留容量の設定根拠について疑問が残るが、各項目の設定に整合がとれている点が評価できる。 ・ Gグループは、独自の工夫はないが国庫補助金交付要綱に準拠した稼働実績やごみ量、ごみ質を踏まえた施設規模等設定の考え方には明確かつ整合が取れている点が評価できる。
(2) ごみ量変動、ごみ質変化の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bグループ、Cグループ、Dグループ、Eグループ、Fグループ、Hグループ、Iグループは、作成した性能曲線が低質ごみ～高質ごみの範囲において定格処理量（100%）を処理する能力を有しており、ごみ処理能力設定の考え方も適切であるため評価できる。
(3) ごみの種類と形状の制限緩和の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bグループ、Cグループ、Dグループ、Fグループ、Gグループ、Hグループ、Iグループは、前処理設備を設置しており、本施設で受入れるごみの種類と形状の制限をできるだけ緩和できる具体的な工夫があり、住民サービスの向上の点からも評価できる。
(4) 採用する処理方式の実績等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループ、Gグループ、Hグループ、Iグループは、申告のあったトラブル事例についていずれも復旧対策を実施し現在は順調に稼働している説明がなされており信頼できるとともに、これまでの経験に基づいた有効的な改善策がみられる。また、これまでの建設及び運転実績に基づいて、環境負荷低減に資する提案がなされており、評価できる。 ・ Eグループは、長期の安定稼働を証明するだけの具体的な説明が不足している点、長期運転実績または安定稼働を証明するだけの具体的な説明も不足していたが、申告のあったトラブル事例についていずれも復旧対策を実施し現在は順調に稼働している説明がなされており評価できる。
3. 運営計画に関する考え方	
(1) 安全かつ安定した運転を行うための考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループとも要求水準に掲げる安全かつ安定した運転を励行するための運営体制、広域組合への連絡体制、安全作業、安全教育の考え方が具体的かつ適切であり、評価できる。特に、Fグループは様々なメニューの具体的な提案がなされている点が評価できる。
(2) 受入時間の拡大についての考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Fグループ、Hグループは土曜・日曜・祝日の受入時間の拡大が、平日と同レベルでなされている点と平日で昼休み時間の受入、夕方の受入延長がなされている点が評価できる。 ・ その他各グループとも要求水準に掲げる現行の受入時間に対する拡大がなされている点が評価できる。
(3) 処理不適物発見等の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cグループ、Dグループ、Fグループ、Gグループ、Hグループ、Iグループは持込可燃ごみに混入した処理不適物の発見方法等の考え方が具体的かつ有効であり、発見できない場合でも施設の安定稼働に悪影響を与えない考え方があり、評価できる。特にDグループ、Iグループは発見方法について優れた提案がなされている点が評価できる。
(4) 副生成物の有効利用についての考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Bグループ、Cグループ、Eグループ、Fグループ、Hグループは、主たる副生成物（溶融スラグ、炭化物、焼却灰、飛灰）の利用用途、利用用途先及び有効利用状況確認等の管理方法の考え方が具体的であり、運営期間を通じて全量の引取保証がなされている点が評価できる。

内容審査 の審査項目	講 評
(5)機械設備の維持管理に関する考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Iグループは溶融スラグの全量について、引取保証が3年間ある点が評価できる。 ・ 各グループともに、性能保証事項を遵守しながら安全かつ安定した運転を維持するための考え方に基づいた保守管理計画、修繕更新計画が提案されている点、維持管理費の低減のための考え方が具体的かつ効果的である点が評価できる。特に、Dグループ、Fグループ、Iグループは維持管理方法として、維持管理会社による独自の提案がなされている点が評価できる。
4.追加溶融施設整備及び運営の考え方	
(1)事業スキームの安定性確保の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cグループは、主たる副生成物の運営期間を通じた全量の引取保証があり、事業目的に照らして、採用する処理方式の得失が理解されており、事業スキームの不安定要因が十分把握・検討されている。また、追加整備に至らないための考え方ならびに追加整備に万が一至った場合の整備及び運営の考え方が具体的かつ適切であり、評価できる。 ・ Eグループは、広域組合委託先企業による主たる副生成物の引取保証で事業安定性を謳っているが、追加整備に至らないための考え方ならびに追加整備に万が一至った場合の整備及び運営の考え方についての表現が、若干不足している。
(2)追加溶融施設整備の考え方	
(3)追加溶融施設運営の考え方	

4. 提案価格確認

8グループの提案価格は表4-4に示すとおりである。提案価格は、広域組合が事業期間中に選定事業者を支払うサービス対価の総額として事業者が提案した概算額である。

表4-4 提案価格

応募者番号	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
提案価格	9,700,000,000円	10,230,000,000円	10,600,000,000円	8,180,000,000円
応募者番号	Fグループ	Gグループ	Hグループ	Iグループ
提案価格	9,600,000,000円	9,650,000,000円	8,100,000,000円	10,600,000,000円

注) 価格には消費税及び地方消費税を含まない。

5. 総合評価値 の算出及び第一次審査通過者の選定

「落札者決定基準」に従って表4-5に示すとおり8グループ全ての総合評価値 を求め（小数第4位に四捨五入）、一定水準以上の総合評価値 を得た3グループを第一次審査の通過者とした（表4-6参照）。

表 4-5 総合評価値 の算出結果

応募者番号	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
内容審査 の得点	78.25	82.75	92.25	66.00
提案価格	9,700,000,000 円	10,230,000,000 円	10,600,000,000 円	8,180,000,000 円
総合評価値	0.8067	0.8089	0.8703	0.8068
応募者番号	Fグループ	Gグループ	Hグループ	Iグループ
内容審査 の得点	93.00	67.50	92.00	88.25
提案価格	9,600,000,000 円	9,650,000,000 円	8,100,000,000 円	10,600,000,000 円
総合評価値	0.9688	0.6995	1.1358	0.8325

注) 1. 総合評価値 = 内容審査 の得点 ÷ (提案価格 × 10⁻⁸)
 2. 価格には消費税及び地方消費税を含まない。

表 4-6 第一次審査の通過者

応募者番号	代表事業者
Dグループ	エコマネジ株式会社
Fグループ	三菱重工業株式会社
Hグループ	電源開発株式会社

第 5 第二次審査

1. 第二次審査の対象グループ

広域組合は、審査委員会の報告を受け、Dグループ、Fグループ及びHグループの3グループを第一次審査の通過者として決定したが、第二次審査書類の受付前にHグループから辞退の申し入れがあり、第二次審査の対象グループは表 5-1 に示すとおり 2 グループとなった。

表 5-1 第二次審査の対象グループ

応募者番号	代表事業者
Dグループ	エコマネジ株式会社
Fグループ	三菱重工業株式会社

注) Hグループ(代表事業者: 電源開発株式会社)は辞退

2. 入札価格審査

入札説明書で示した PFI 事業想定価格 又は第一次審査で応募者が提出した提案価格を

入札価格が、超過していないことを表 5-2 により確認した。

表 5-2 入札価格審査結果

応募者番号	Dグループ	Fグループ
PFI 事業想定価格	超過していない	超過していない
第一次審査時の提案価格	超過していない	超過していない

PFI 事業で実施する場合を想定して広域組合が事業期間中に選定事業者を支払うサービス対価の総額として算出した価格（11,244,817,000 円）

3. 基礎審査

応募者から提出された提案書類の各様式に記載された内容が、入札説明書及び要求水準書に示す最低限の要件を満たしているか否かを審査した。その結果表 5-3 に示すとおり 2 グループとも当該要件を全て満たしており、また、第一次審査時の提案内容と整合するものであるかどうかを確認し、重大な不整合がないことが認められたため、基礎審査の得点「150 点」を付与した。

表 5-3 基礎審査結果

応募者番号	Dグループ	Fグループ
第一次審査提案内容との重大な不整合	重大な不整合なし	重大な不整合なし
施設の整備に関する要求水準	未達事項なし	未達事項なし
施設の運営に関する要求水準	未達事項なし	未達事項なし

4. 内容審査

(1) 審査結果一覧

内容審査の審査結果の一覧は、表 5-4 に示すとおりである。内容審査は、要求水準を満たすことはもとより、応募者が提案する内容が一般廃棄物処理業務の一環として適切かつ柔軟な対応が図られているかについて、要求水準を達成するための具体的方法及び要求水準を越える具体的提案内容を審査し得点化した。具体的には、応募者から提出された内容審査に関する提案書をもとに、「落札者決定基準」（配点 100 点）に示す 28 問（74 視点）の各設問について A～E の 5 段階評価を行い、両グループの提案内容を得点化した。

表 5-4 内容審査 の審査結果一覧

審査項目	配点	Dグループ		Fグループ	
		評価	得点	評価	得点
1. 事業の総合計画					
(1)本事業に対する取組方針					
a. 提案内容の概要	5.00	A	5.00	A	5.00
小計	5.00		5.00		5.00
2. 整備計画					
(1)機械設備の設計・施工					
a. 安定稼働に対する特徴	9.00	C	4.50	B	6.75
b. 安全性確保の考え方及び特徴	9.00	B	6.75	B	6.75
(2)建築物等の設計・施工					
a. 動線計画	3.00	D	0.75	B	2.25
b. 建築計画(平面・断面計画)	3.00	B	2.25	B	2.25
c. 建築計画(デザイン計画)	3.00	A	3.00	B	2.25
d. 建築計画(仕上げ計画)	2.00	B	1.50	B	1.50
e. 外構施設	2.00	A	2.00	B	1.50
(3)その他附帯業務					
a. 整備工程表	2.00	A	2.00	A	2.00
b. 公害防止、周辺環境への配慮等	2.00	A	2.00	A	2.00
小計	35.00		24.75		27.25
3. 運営計画					
(1)運営に関する基本計画					
a. 運営人員体制と勤務体制等	5.00	A	5.00	C	2.50
(2)処理対象物の受入れ					
a. 処理対象物の受入れ方法	4.00	A	4.00	B	3.00
(3)副生成物の有効利用					
a. 副生成物の有効利用方法	5.00	B	3.75	A	5.00
(4)環境保全の管理					
a. 計測管理	1.00	B	0.75	A	1.00
b. 情報公開	3.00	A	3.00	A	3.00
(5)施設の維持管理					
a. 機械設備の維持管理計画	4.00	B	3.00	A	4.00
b. 建築物等の維持管理計画	2.00	B	1.50	B	1.50
(6)その他付帯業務					
a. 施設見学者への対応	5.00	B	3.75	A	5.00
b. 広域組合への所有権移転手続き	1.00	B	0.75	A	1.00
小計	30.00		25.50		26.00
4. 追加溶融施設の整備及び運営計画					
(1)追加溶融施設の整備及び運営の概要					
a. 整備計画	5.00	A	5.00	A	5.00
b. 運営計画	5.00	A	5.00	A	5.00
小計	10.00		10.00		10.00
5. 事業計画					
(1)実施体制					
a. 事業実施体制	4.00	A	4.00	A	4.00
(2)資金計画					
a. 資金調達	3.00	B	2.25	B	2.25
b. 収支計画	6.00	B	4.50	B	4.50
c. 資金不足への対応	1.00	B	0.75	A	1.00
(3)リスク管理方針					
a. リスク分担	4.00	B	3.00	A	4.00
b. 保険の付保	1.00	B	0.75	A	1.00
c. 経営悪化時の対応	1.00	B	0.75	A	1.00
小計	20.00		16.00		17.75
内容審査 の得点合計	100.00		81.25		86.00

< 採点基準 >

- A (配点 × 100%) : 応募者独自提案であり, その効果に非常に大きな期待ができる。
- B (配点 × 75%) : 提案の効果に大きな期待ができる。
- C (配点 × 50%) : 提案の効果に期待ができる。
- D (配点 × 25%) : 提案の効果にあまり期待ができない。
- E (配点 × 0%) : 提案の効果にほとんど期待ができない。

(2) 内容審査 の講評

内容審査 の講評は表 5-5 に示すとおりである。

表 5-5 内容審査 の講評

内容審査 の審査項目	講 評
1. 事業の総合計画	
(1) 本事業に対する取組方針	
a. 提案内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループともに、整備、運営等の各種業務を一体的・長期的かつ安定的に実施するための方針が示されており、事業に対する意欲も伺える。また、提案内容の概要と整備計画、運営計画、事業計画に整合性がある点が評価できる。
2. 整備計画	
(1) 機械設備の設計・施工	
a. 安定稼働に対する特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループは、処理システムの特徴が、建設及び運転実績に基づいた提案となっている点、需用費の軽減に資する有効な処理システムについての提案がなされている点が評価できる。しかし、確保できるごみピット容量が小さく、補修期間の炉停止時においてはピット内でごみを積み上げる対応を前提としている。 ・ Fグループは、処理システムの特徴が建設及び運転実績に基づいた提案となっている点、需用費の軽減に資する有効な処理システムについての提案がなされている点が評価できる。また、汚泥を汚泥専用の受入設備で受け入れ、他の処理対象物と同様にごみピットで貯留することとなっている点でやや疑問が残るものの、確保できるごみピット容量が大きく、ごみ量変動に対応できる余裕のある提案であった。
b. 安全性確保の考え方及び特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループともに安全性確保に対する考え方及びその方法が具体的かつ適切であり、処理システムの特徴が二次災害の防止に配慮した内容となっている点が評価できる。
(2) 建築物等の設計・施工	
a. 動線計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ Fグループは、ごみの搬出入動線が片側 2 車線の一方通行方式を採用しており、車両動線の交差を回避でき、施設へのスムーズな搬出入と災害時の安全性の確保の観点からの動線計画が適切であるという点では評価できる。
b. 建築計画（平面・断面計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループともに、見学者に対する配慮がなされており、機械設備機能の観点からも適切である点が評価できる。
c. 建築計画（デザイン計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループともに、建屋及び煙突が周辺環境と調和した外観デザインとなっており、評価できる。特に、Dグループは地元特産物を利用した外観デザインを提案している点が評価できる。
d. 建築計画（仕上げ計画）	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループともに、建屋及び煙突が周辺環境と調和した外部仕上げ計画となっており、見学者に対する十分配慮した内部仕上げとなっている点が評価できる。
e. 外構施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dグループ、Fグループともに、周辺環境と調和した植栽計画がなされている。特に、Dグループは、植栽の内容や外構施設に様々な工夫がみられる点が評価できる。

内容審査 の審査項目	講 評
(3)その他附帯業務	
a. 整備工程表	・ Dグループ, Fグループともに, 事業スケジュールを踏まえた適切な施設整備工程となっており, 諸手続き等の組立てにも整合がある点が評価できる。
b. 公害防止, 周辺環境への配慮等	・ Dグループ, Fグループともに, 建設工事中の公害防止対策, 周辺環境への配慮, 周辺住民への配慮が十分なされている点が評価できる。
3. 運営計画	
(1)運営に関する基本計画	
a. 運営人員体制と勤務体制等	・ Dグループは, 運営人員体制及び勤務体制の指揮命令系統が明確である点, 適切な人数が配置されている点が評価できる。また, 地域の雇用についても具体的な提示がなされており, 評価できる。 ・ Fグループは, 運営人員体制及び勤務体制の指揮命令系統が明確である点が評価できる。しかし, 夜間の運転体制については, 運転人員が少ない提案がなされていた。
(2)処理対象物の受入れ	
a. 処理対象物の受入れ方法	・ Dグループ, Fグループともに, 処理不適物の受入時間と勤務体制との関係が適切である。また, 処理不適物の計量から処理料金の督促までの効率化を図る工夫がなされており, 処理不適物を除去する観点からの処理不適物の性状の確認方法も具体的かつ適切である。 ・ Dグループは, 平日及び土日祝日において受入時間の拡大がなされており, しかも常時受入である点が評価できる。
(3)副生成物の有効利用	
a. 副生成物の有効利用方法	・ Dグループ, Fグループともに溶融スラグ及び金属類の有効利用用途及び利用用途先が具体的であり, 用途先の代替性に柔軟性がある点が評価できる。特にFグループは溶融スラグ及び金属類について15年間の全量引き取り保証をそれぞれ2社から取っている点が評価できる。
(4)環境保全の管理	
a. 計測管理	・ Dグループ, Fグループともに, 計測管理の実施に関する考え方が具体的かつ適切である。特に, Fグループは要求水準書で規定した数値を上回る計測頻度を独自設定している点が評価できる。
b. 情報公開	・ Dグループ, Fグループともに, 運転データの情報公開に関する考え方が具体的かつ適切である点が評価できる。
(5)施設の維持管理	
a. 機械設備の維持管理計画	・ Dグループ, Fグループともに, 性能保証事項を遵守しながら安全かつ安定した運転を維持するための計画として具体的かつ適切である点が評価できる。特に, Fグループは年度別修繕更新計画が具体的に提示されている点が評価できる。
b. 建築物等の維持管理計画	・ Dグループ, Fグループともに, 建築物, 建築設備, 外構施設の機能を維持するための計画が具体的かつ適切である点が評価できる。
(6)その他付帯業務	
a. 施設見学者への対応	・ Dグループ, Fグループともに, 施設見学者対応に関する考え方及びその方法が具体的かつ適切である。特に, Fグループは見学者対応に関する独自の創意工夫の提案メニューが数多くなされている点が評価できる。

内容審査 の審査項目		講 評
	b. 広域組合への所有権移転手続き	・ Dグループ、Fグループともに、移転に先立つ新規職員の教育方法が具体的かつ適切である。特に、Fグループは、具体的な工夫が幅広く示されている点が評価できる。
4. 追加溶融施設の整備及び運営計画		
(1)追加溶融施設の整備及び運営の概要		
	a. 整備計画	-
	b. 運営計画	-
5. 事業計画		
(1)実施体制		
	a. 事業実施体制	・ Dグループ、Fグループともに、実施体制、構成員、協力事業者、広域組合委託先企業、金融機関等の役割分担（業務内容等）と責任分担が具体的かつ適切である点が評価できる。
(2)資金計画		
	a. 資金調達	・ Dグループは、出資者構成にやや疑問が残るが、事業の安定性及び事業実施の確実性を高めるための工夫がなされている点が評価できる。 ・ Fグループは、やや過大な資金調達の仕組みではないかとの意見もあったが、事業の安定性及び事業実施の確実性を高めるための工夫がなされている点が評価できる。
	b. 収支計画	・ Dグループは、運営開始当初のリザーブ資金がやや薄い点に疑問が残るが、事業の安定性及び事業実施の確実性を高めるための工夫がなされている点が評価できる。 ・ Fグループは、事業期間を通じてリザーブ資金がやや過大ではないかとの意見もあったが、事業の安定性及び事業実施の確実性を高めるための工夫がなされている点が評価できる。
	c. 資金不足への対応	・ Dグループ、Fグループともに、建設資金、運転資金が不足した場合の対策が具体的かつ明確である点が評価できる。特に、Fグループは運転資金が不足した場合の対応として、出資者による様々な工夫がなされている点が評価できる。
(3)リスク管理方針		
	a. リスク分担	・ Dグループ、Fグループともに、本事業のリスクについて十分把握・検討されており、構成員、協力事業者等の間に適切に配分されており、リスクヘッジの方策が具体的に示されている点が評価できる。また、副生成物の有効利用に関するリスクについても特段の配慮を持って提案がなされている点が評価できる。特に、Fグループは、事業契約の解除リスクへの対応として、出資者による様々な工夫がなされている点が評価できる。
	b. 保険の付保	・ Dグループ、Fグループともに、付保を義務付けた保険以外の保険について、有効なものを活用している点が評価できる。特に、Fグループは、運営期間中の保険内容に様々な工夫がなされている点が評価できる。
	c. 経営悪化時の対応	・ Dグループ、Fグループともに、経営悪化時の対応策についての提案がなされている点が評価できる。特に、FグループはS P Cの経営悪化時の出資者による具体的な建て直し方法が示されており、実効性がある点が評価できる。

5. 総合評価値 の算出及び優秀提案の選定

「落札者決定基準」に従って表 5-6 に示すとおり両グループの総合評価値 を求め（小数第 4 位に四捨五入）、より高い総合評価値 を得た F グループの提案を優秀提案に選定した。なお、両グループの各入札価格は、内容審査 に関する書類ならびに事業計画に関する提案書（見積書及び収支計画関連書類）を確認し、本事業を提案内容のとおり成し遂げ得る価格であると判断した。

表 5-6 総合評価値 の算出結果

項目	配点	D グループ	F グループ
基礎審査の得点	150.00	150.00	150.00
内容審査 の得点	100.00	81.25	86.00
得点の合計	250.00	231.25	236.00
入札価格	-	8,280,000,208 円	8,000,000,000 円
総合評価値	-	2.7929	2.9500

注) 1. 総合評価値 = (基礎審査の得点 + 内容審査 の得点) ÷ (提案価格 × 10⁻⁸)
 2. 価格には消費税及び地方消費税を含まない。

第 6 総評

本事業では、第一次審査を含め合計 8 グループから応募を受け、いずれも広域組合の事業目的を理解したレベルの高い提案であった。特に、第二次審査における D グループ、F グループの提案は、いずれも内容に一貫性があり、技術面及び価格面双方において民間事業者の創意工夫やノウハウが折りこまれた高いレベルでの提案であった。

優秀提案として選定した F グループの提案書では、実績に基づき安心・安全であるとともに、ごみ質及びごみ量の広範な変動にも対応できる処理システムによる施設の整備計画及び運営計画の提案がなされるとともに、地元企業が本事業に構成員として参画している特徴を活かして地域の特性を的確に捉え、地域との連携・融和に配慮した提案がなされていた。また、当該グループの豊富なデータベースの反映と最新技術の導入による広域組合の財政負担の大幅な縮減、溶融スラグの有効利用などにより環境負荷をできる限り低減するなどの循環型社会への貢献、施設見学者への斬新で柔軟なサービスの提供等を提案するなど、全体を通じて極めて意欲的で、かつ、質の高い優れた提案がなされていた。

今後、当該グループにおいて、審査で指摘した点について適切な配慮がなされるとともに、官民が良好なパートナーシップを構築し、公共事業の一環として事業目的に沿った安心・安全で質の高いごみ処理サービスの提供が行われることを期待している。